

片山潜著作集

第二卷

片山潜生誕百年記念会編

片山潜著作集

第二卷

片山潜生誕百年記念会編

(第二回配本)

昭和五年二月一日 初版印刷
昭和五年二月五日 初版発行

定価 八百五十円

編集・発行者

片山潜生誕百年記念会

印 要
検 不

印刷者 竹内常治郎
東京都渋谷区代々木三丁目三九

東京都新宿区若松町一二八加藤製版気付

片山潜著作集 第二卷

発行所

発売所

片山潜生誕百年記念会
株式会社
東京都千代田区
神田小川町三ノ八
河出書房新社

振替口座東京一〇八〇二番
電話東京(29)三七二一番

落丁本・乱丁本はお取替え致します

序

片山潜は、一八五九年（安政六年）十二月三日、岡山県南条郡羽出木村の農家に生れ、全生涯を労働者と人民の解放のためにささげ、一九三三年十一月五日、コミンテルンの執行委員として、モスクワで七十四歳のながい革命家の生涯をおえた。

一九五九年は、片山潜の生誕の年から数えて百年にあたるわけである。

いうまでもなく、片山潜は、日本が生んだ人民解放の偉人であり、国際的な労働運動・社会主義運動・世界平和運動のたぐいなく優れた指導者であった。その生誕百年を、国民的規模で記念する年にあたり、われわれは多くの人々の協力によってその主要著作を上梓し、不朽の業績を顕彰することができたことを心から喜びたい。

片山潜の人と事業を記念するために、日本のみならず、世界諸国民が、それぞれ記念の行事を開催する。ソ連邦において、厳密な校訂の下に「片山潜著作集」が刊行されるのとあいまって、わが国でも、本著作集三巻が公刊の運びになったことは、きわめて意義ぶかい。

従来、片山潜の在米時代・在ソ時代の業績は、かぎられた範囲でしか紹介されてこなかったが、今度の生誕記念を前にして、それらの時代の著作・伝記・資料は、にわかに豊富になった。それは、とくにソ連邦共産党ならびにマルクス・レーニン研究所・科学院東洋研究所の協力によるものがきわめて多大であった。本著作集の刊行は、その意味

で、片山潜生誕百年に際しての国際的学問・文化交流の大きな成果といつてよい。かつまた、本会はこの好意にたいして深甚の謝意を表する。

本著作集は、三卷よりなり、第一卷は片山潜の主要著書と未発表の自伝を収め、第二卷は、在日時代を中心に在米時代をふくめてモスクワに赴くまでの著作・論文を収め、第三卷は、在モスクワ、コミンテルンの活動に従事した晩年の論稿を翻訳収録した。未復刻・未翻訳の諸論稿と主要著作を網羅し、これによって、ほぼこの大革命家の業績の全貌をあきらかにするとともに、日本および国際人民解放運動の歴史的資料を豊かに提供しえたことは喜びにたえない。

ちなみに、この著作集の編集は、片山潜生誕百年記念会の一事業として、その編集委員会があたった。

なおこの選集は、この三卷をもつて一応完結したものとするが、これに洩れた諸編は期をみて刊行を続けたいと思つている。

一九五九年十一月

片山潜生誕百年記念会

会 長	三浦 鏡太郎
副会長	平野 義太郎
副会長	木 村 毅
事務局長	小林 輝次

凡 例

- 一 本著作集の校訂に当っては、原典と照合して厳密を期した。文字の異同については、読み易いもの、字義の適切なもの、文法的に正しいものを採ることにした。
- 一 著書・論文の中、外国文でかかれたものは、翻訳にあたつてすべて当用漢字、新かなづかいを用いた。
- 一 原文にある振仮名・傍点・傍丸等は原則として削除したが、とくに外国の地名・人名などの漢字で読みにくいものは振仮名をのこすことにし、また外国の地名・人名に付されている傍線はそのままにした。
- 一 本文にある句読点は原則として原典にしたがが、とくに読みにくいものは編集委員会の責任において改めた。

目次

序

凡例

I 一八九七年〜一九〇三年	一
社會學と社會改良との關係	三
勞働團結の必要	一四
資本家に告ぐ	二〇
歐米諸國都市水道事業の景況を敘して東京市の水税問題に及ぶ	二六
工場法と工業	三五
日本に於ける勞働	三九
改良家	五六
今後の勞働運動	五七
金井延氏に答ふ	六六
與會我日鐵社長書	七〇

日鐵大宮工場主に告ぐる公開書	七一
貧富の戦争	七三
二十世紀に於ける労働運動の方針	九四
「ダスカピタル」と其の著者マークスの地位	九八
第一回労働者大懇親會に就て所感	一〇八
社會改良手段普通選舉	一一〇
労働問題の解決（結論）	一三五
労働者と軍人	一三六
新政黨の必要を論ず	一三九
労働問題の過去現在及將來	一四六
大阪社會主義大會	一五二
東北 通 感	一五五
海外渡航に當りて労働者諸君に告ぐ	一五七
Ⅱ 一九〇四年～一九一二年	
現時の戦争にたいする日本の社會主義者の態度	一六一
米國だより	一六三
社會的 革 命	一八二

萬國社會黨大會	一八五
電車値上反對意見	一九五
勞働者向上の途	一九九
社會主義鄙見	二〇二
自然の結果——幸徳堺兩君と予の立場——	二〇七
消費組合の話	二一〇
天下の勞働者諸君に告白す	二一四
吾徒今後の方針	二一六
日本の社會主義者は何を要求すべき乎	二二〇
我邦基督教牧師及信徒に質す	二二二
勞働者救済に就いて	二二四
帝國憲法と社會主義	二二九
日本の工業と社會主義	二三二
社會の階級と其道德	二四一
工場法案を評す	二四五
家族制度と今日の經濟	二五〇
文部省展覽會雜感	二五四
坪内博士のハムレットを読む	二五八

文藝協會のハムレット劇を觀る……………	二六四
文藝協會のノラ劇を見て感あり……………	二七一
東鐵車掌の沙上偶語……………	二七四
同盟罷工に對する社會の態度……………	二七七
日本の社會運動……………	二八二

Ⅲ 一九一三年と一九二一年

日本婦人の地位……………	二八九
昨非今是、孫氏の歡迎……………	二九四
日本における中國人亡命者……………	二九九
日本における民主主義的昂揚……………	三〇二
戦争と日本人……………	三〇五
サンフランシスコだより……………	三〇七
日本勞働代表者と桑港領事……………	三〇八
米國の排日運動……………	三一〇
桑港だより……………	三一三
米國の軍備熱と社會黨……………	三二一
無政府主義を造る日本官憲……………	三二三

桑 港 よ り	三二四
ニューヨーク便り	三二五
勞働者諸君に告ぐ	三三〇
ニューヨークより	三三二
米國紐育通信國家論	三三六
日本における資本主義の最近の發展	三三九
一日本人の見た最近の米騒動	三五〇
日本と中國	三五六
日本とソヴェト・ロシア	三六四
日本と來るべき社會革命	三六八
解 說	三八三

附 錄

片山潜著作目錄

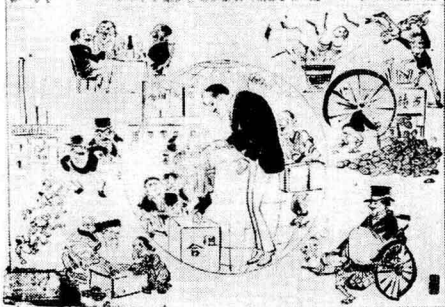
I 一八九七年～一九〇三年

勞働世界

中華民國二十二年十二月二十二日 星期六

本報之宗旨在宣傳勞働者之利益，並促進勞働者與資本家之合作。本報之內容，除載有勞働者之生活狀況，及勞働者之要求外，並載有勞働者之教育，及勞働者之福利。本報之發行，旨在使勞働者能了解其自身之地位，並能與資本家合作，以改善其生活。

本報之編輯，由勞働者代表與資本家代表共同擔任。本報之發行，旨在使勞働者能了解其自身之地位，並能與資本家合作，以改善其生活。本報之內容，除載有勞働者之生活狀況，及勞働者之要求外，並載有勞働者之教育，及勞働者之福利。



社會學と社會改良との關係

〔「社會雜誌」第一卷第一・二號、一八九七年四月・五月〕

(上)

思慮淺薄なる者には科學は往々其適用上の技術と無頓着なるが如き感なきにあらざるべし、犬儒教の助成に依り此の如き淺見者流の事實を見るを得ん例之ば醫學は主として病者を回復せんよりは寧ろ死體の檢察法に熱心なるが如き是れなり、社會學も現今或は二種の破壞的批評を享く曰く(第一)社會學は純然たる社會の經驗的方法なり即ち諸經驗の集合若くは改良上の標題を蒐集せるものにして科學的基礎及許可なしと次に又(第二)社會學は純粹に抽象的且想像的事物にして事實と離隔し實在界の社會的行爲若しくは方法と關係なきものなりと、勿論如何なる科學と雖も特に科學の初期に於ては或點に達するの間必要上よりして實際の行爲に向て同情を表し又相容るゝことなるべきも科學的調査を爲す者は其科學を結局事實に適合せんとするに盡力す然れども其知識の明敏なるが爲め却て未熟の科學の應用は其技術を助成せんよりは寧ろ之を妨害するものなりと信ぜり故に科學者は如何なる事實に遭遇するも自身に關係せるものをば直に社會的出來事と見做し之に諸多の事實の關係せるを知り其發見を力むるものなり例之ば天文學に於て其原則を探求し次に之を實地に應用せんが爲め一の機械を構造するが如きなり、凡發見者としての科學者は事物の眞理を解釋することを得るに至るの間は應用上單に一の疑問者たるに止まるべし從て其自身の採用せる方法内に束縛せらるべきなり故に此等の學者は其實驗或は觀察か原則を一定する迄は其應用上小心翼翼たらざるべからず科學者の信ずる所に依れば技術的經驗は必要なり即ち幾多の經驗を累ねて始めて眞理の彼岸に達せらるべしと如此にして未

熟の原則を應用せば社會を混雜するとなかるべし注射法の發明者コフの如き自ら數年來の經驗を積み又廣く諸國に訴て幾多の經驗を経て始めて應用さるゝに至れり由是觀之研究者たる學者と之を應用する技術者及其方法とは各異れり故に若し之を實地に適用せんと欲せば唯混亂を見るべきのみ、社會學の材料を歴史的及分析的に分類するは恐くば社會學の二つに分るゝ傾向を與ふるものなり歴史的の材料に主として注意を加ふる學者は遂に社會の激變を疑ふに至らん蓋し彼等は重に數千年間社會の現象が徐々に變遷せるに見慣れ居るを以て自然社會は恰も諸多の神が一の引臼を廻轉するが如く其運動甚だ遲緩なるを覺るべし故に此等に對しては社會經濟の原則は之を示すに急激に其改良を企圖するが如きは無謀にして自然の法則に違背せるものとせん彼等は恐らく彼の要素たる社會的勢力は數千年進歩の後に至らば必らず幸福ならしむるを得んと思惟せるならん故に這種の學者は社會改良を翼賛し之に信念を置かざるなり此種の社會學者の筆頭たるはハーバートスペンサー氏とす然るに之と趣を異にする學者は分析的の方法に依り同時代の生命即ち社會的生活に關する狀態を研究するものなり而して此種の學者は在昔の斷簡遺墨より蒐集せる材料に依りて編成せる原則を以て直に現在の社會的現象に適用せんと欲するものなり故に其發見に依れば社會の不完全と其弊害は實際刈除し得べく信じ又些細の盡力を以て改良するを得るものとせり是れ甚しき謬想に陥れるものなり、蓋し社會に於ける時間なる事實を忘却し易きを以てなり故に又社會の改良進歩は諸多の改良上の勢力が共同せるものなることを認めざるに至る虞あり彼等は實に一部を觀察し未だ全部を通看せざるなり從て同時の社會的事實を分析研究する此等の社會學者は社會的吹鼓者の部類に屬し易きなり吾人の今社會學を研究するに當り社會學と社會學者との區別を明確にする必要あり、理論上よりせば諸般の科學は改良的組織的且進歩的なり而して科學者は其性質上種々の差異あり例之ば非常に進歩して狂妄者に近き者あり又甚だ保守的にして愚鈍に類する者あり、吾人が社會學に向て發見せる科學的行爲は社會學者の性質を確定するの標準たり吾人が與ふる所の名題は即社會學が時の進歩に向て一の事實として與ふる

ことを得る働きを第一に消極的にして次に積極的に説明す、語を換へて之を云へば社會學の前提たるべきものは第一に消極的に次に積極的に社會學が直接の進歩に於て一の事實として附與するを得べき働作を解釋し得るものなり

或時代に於ける時事問題及文明問題は各其時世に於ける特種の狀態を代表せるものにして人類生活上の重大問題なり或時代の含蓄せる最高の知識は其以前に於ける最高等の知識に優れる數等なり即ち其時代は前代に比し常に多少の進歩を経たればなり、人類の進歩は實際の事物と軋轢せる結果及激變に依り賦與せられたる知識を應用する者の漸次累積せるにあり將來に於ける進歩も社會的生活に根據を與ふべき事實を解釋し且之を應用するに基く而して此等の事實は社會の混亂に瀕すると共に混雜す、社會の狀態を解剖せんには從來よりは更に科學の必要を感じ、二十世紀に於ける社會學は古來因襲せる知識を以て最近の特色に對照せざるべからず、換言せば來世紀の社會は古來の知識を寫眞機械と爲し近代の特種なる現象を撮影せざるべからず、如此社會の事實を解釋するの困難に遭遇し却て社會的教訓を狹隘と爲し且之を平和に説明せんと欲し而して社會學上の問題は極めて平坦なるものとし微々たる勤勞にて改良の目的を達すべきことを信じ或社會問題にのみ偏執するに至るべし、現今に於ける所謂社會學上の著書と稱せらるるものは概ね無責任の論説を公衆の利益に關する或一部の問題に向て論述せるに外ならず、此等の如き社會學上の論説は一に感情に訴へ正義を楯とするものにあらざるが故に社會に毫も利益なく却て害毒を被らしむるものなり、此等學者の社會學は彼の科學の結果を收得せず皮相ある人類偽造の免狀を以て社會の先導者とならんとする者なり蓋し如何なる方法或は結果に關する知識が果して正當なりや否を判別するの能力を缺ける者の著述に係るを以てなり、多數の人士が社會學なりと發表せる目錄は恰も親切なる感情を以て從來經濟の原理と法則を無視し其適用を停止せんとする一の議案たり此の如くんば經濟の原則豈に障害せられずして止まんや然らば世の所謂社會學も亦非科學的の一滑稽書なりと稱せらるるも亦疑ふべからず而して社會學者は此種の批評を甘受せざるべからざるに至らん彼の社會的一愚物件才

子の所説は恰も諸種の改良方制を社會病の徴候に向て其病根病質を充分に診察することなくして調藥せんと企圖する
と均しきなり故に此等の輕卒皮想觀者に對しては社會學は一の警誡にして反對論のみ彼の自ら棲居せる境遇の外は社
會諸關係及狀態を熟知せざる者は其自己の境遇に於ては社會上の事實を認知するを得其事實は社會學上の分類をする
に當り一の附寄物たることを得るなり例令尋常一樣己が住居する所の社會内に於ての衛生上工業上、若くは道德上の
關係を觀察する卑見を有せる者は其棲居せる社會の改良と其社會的經濟の適用を怠り緩慢なるを論述して社會學者の
注意を惹き社會學者の前に證據人となるを得べしと雖も一步を進め社會組織の立法者即ち社會學者たるや未だし故に
社會改良の必要に關し其代表者を以て目するは或は可ならん然れども真正なる新社會を組織する爲めに社會問題を案
出し之を發表せんには尙幾多の研鑽を経ざるべからず、世の社會問題に容喙するを以て一の娛樂と爲す者又研究に従
事するも未だ一の社會學術に通達せず就中社會的現象に就ての知識と其全体との關係を熟知せざる者の唱導する社會
學は決して眞の社會學と云ふを得ざるなり、如此社會の表面のみを觀察し而も大膽に社會的順序を確立せんとする者
は恰も油繪専門の美術家をして橋梁を架せしめ又は蒸氣罐製造を主とする冶金家をして海軍の指揮を爲さしむるに均
しく其任に適せざるや吾人の喋々を俟たざるなり

社會學は之を社會主義と區別せざるべからず、社會主義は社會改良に關する改良策なり然るに社會學は科學にして
而も哲學の部類に屬す、社會學の社會主義に於ける關係は恰も憲法に對する各黨の政綱の如くなり、蓋し社會主義又
は政黨の主張する所は概ね或る政綱に重きを置き其政綱又は主義が憲法の原則及社會學上の理論に符合せるや否を舉
證せざるなり、社會主義は社會學の調査に係る事項を以て立論の第一命題と爲すべきなり、尤も社會主義者は其の活
潑なる見識に依り社會學が立證せんとする所の社會的解釋に到達することなきにあらず然れども現今に於ける社會主
義と社會學との關係は恰も古代の占星學か天文學の起原史に對するが如く或は鍊金學か化學の初期に於けるが如し、